

南山大学広報誌

NANZAN

BULLETIN

vol. 199
2016.12.20

特集

INTERNATIONAL FRIENDSHIP

活発な国際交流



NANZAN
UNIVERSITY



活発な国際交流

今年度は、初めて実施された「フランスコ・ボランティアキャンプ」、2年に1度開催される「ACUCA (アジア・キリスト教大学協会) STUDENT CAMP」、毎年開催される「ASEACCU (東南・東アジアカトリック大学連盟) 学生会議」に、それぞれ2名 (計6名) の南山大生が参加し、活発な国際交流をはかりました。各プログラムの実施内容と参加した学生の感想を紹介します。



日韓カトリック系大学間交流プログラム フランスコ・ボランティアキャンプに参加して

期間: 2016年8月15日~22日
場所: 韓国国内各地
(幹事校: 韓国カトリック大学)

参加者: 若林はるかさん(総合政策学部総合政策学科3年)
石垣あすかさん(法学部法律学科1年)



フランスコ・ボランティアキャンプ実施内容

フランスコ・ボランティアキャンプは、ボランティア活動を通してカトリック教育理念の理解を深め、慈善意識の向上をはかることを目的に、韓国のカトリック系大学の連携組織「韓国カトリック系大学協議会」の主催により、韓国と日本のカトリック系大学の学生間交流プログラムとして企画されました。このプログラムは、「貧しい人々との連携と奉仕」を掲げるフランスコ教皇のメッセージに倣い、今年度から新たに実施された国際ボランティア活動で、将来的には、アジアの平和への貢献を基調とした発展性を目標としています。

第1回目のボランティアキャンプは、8月15日から22日に韓国国内各地で実施され、カトリック系大学に在学する学生(日本からは10大学32名、韓国からは12大学約80名)が参加しました。8日間の日程は、「前夜祭」、「ボランティア活動」、および「情操教育キャンプ」で構成され、5日間にわたるボランティア活動では、日本と韓国の学生が、農村・障がい者施設・ホームレス支援施設等プログラム内容にあわせた場所に分散して、農作業・清掃・障がい者の生活支援・食事支援等のボランティア活動を共に行いました。

若林はるかさん感想

私は、このボランティアキャンプで障がいのある高齢者がサービスを受けることのできる施設に派遣されました。現地人である韓国人でも、相手の方とうまくコミュニケーションが取れないことがありますが、言葉で意思疎通を図るよりも、顔の表情を明るくし、身振り手振りで伝えようとするのが相手の心を開く一歩になっていたように感じます。直接的な関わりは数時間だったにもかかわらず、施設内ですれ違うと手を握りに来てくれたり、挨拶をしに来てくれたりしたことがとても印象的でした。このボランティア活動を通して相手のことを考え、思うことが大切だと感じました。

また、キリスト教の文化に直接触れることの出来る貴重な機会にもなりました。毎朝流れる聖歌やお祈り、日本ではあまり見ることのできない規模のミサなど、キリスト教についての知識を深めることができました。

このボランティアキャンプでの経験を生かして、様々な人と関わっていききたいと思います。



石垣あすかさん感想

私は主にコットンネという社会福祉施設でボランティア活動しました。コットンネでは、捨てられてしまった子どもたちやホームレスの方、重度の障がいや病気を抱える方など、様々な方々が生活をしています。ここで出会った人々は辛い経験をしてきているはずなのに、皆「私は幸せです。」と言います。最初はそのように言える理由が分かりませんでした。しかし、「私は幸せです。私が代わりに苦痛をもらうのであなたは幸せになってください。」と、重度の障がいを抱えながらも全身の力を振り絞って話してくれた方に出会い、その理由は愛だと分かりました。人の幸せが自分の幸せだと言えるのは、愛があるからこそです。コットンネは愛で溢れている場所でした。私はボランティアをして何かを与える側であったはずなのに、愛をはじめ多くの大切なものを受け取りました。これからは受け取ったものを忘れずに、一生懸命に生きていきたいです。このボランティアでの経験は私にとってかけがいのないものとなりました。



ACUCA(アジア・キリスト教大学協会) STUDENT CAMPに参加して

期間: 2016年8月22日~26日
場所: Parahyangan Catholic University
(インドネシア・バンドン市)

参加者: 山田サラさん(外国語学部英米学科3年)
宮田愛理さん(短期大学部英語科2年)



ACUCA実施内容

ACUCA※には、タイ・台湾・フィリピン・韓国・日本・インドネシア・インド・香港のキリスト教系大学が加盟しており、1994年以降2年に1度国際学生会議(STUDENT CAMP)が開催されています。この学生会議は、アジアの学生たちが互いの文化や社会を踏まえて共に語り合い、相互理解を深めるもので、今年度は8月22日から26日にインドネシアのバンドン市にあるParahyangan Catholic Universityで開催され、8カ国・地域から96名の学生が参加しました。今年度は「Local Spiritualities and Everydayness: Promoting Religious Conversation in Christian Higher Education」をテーマに、学生同士のプレゼンテーションやディスカッションを通じて、様々な側面から問題への理解を深めました。

また、最終日には「Cultural Night」と題して参加学生が自国の伝統や文化を紹介する時間が設けられており、参加者はそれぞれの国のダンスや劇、歌を衣装や楽器、音楽を用いて紹介したり、伝統的なお菓子などを交換したり、学生たちの国際交流の場となりました。

※ACUCA: The Association of Christian Universities and Colleges in Asia

山田サラさん感想

今年、インドネシアで開かれた、ACUCA STUDENT CAMPへの参加は、私の3年間の学生生活の中でとても大切な学びと思い出となりました。アジアの各国からの学生が集まり、キリスト教大学の学生としての役割や毎日の生活の中で苦戦していることを共有して、私たちが一人一人にできることを考えさせられました。この機会を通して、他国の学生と共感することによってアジアのそれぞれの国を身近に感じています。

現地では、グループごとに分かれて行動し、国籍を問わずさらに友情を深めて親近感を覚えました。ほぼ毎日、グループと一緒に山を登り、汗をかき、時には笑い合い、時には涙を流し、一緒に歌ったりしました。これらすべての経験は、日常の中の小さな出来事からでも生きている実感は確かに得られるということを学ばせてくれました。これからも今回のテーマの「spirituality in everydayness」を考えることによって、生きている環境の中で感じられる spirituality が存在していることに感謝して、日々を大切にしていきたいと思っています。



宮田愛理さん感想

今まで南山大学で過ごす中で、カトリック系の大学の学生である意味を深く考えたことがありませんでした。「宗教」や「信仰」についてはあくまでも知識として吸収するだけでした。

しかし、勉強熱心かつアクティブなアジアの学生たちと共にキリスト教の視点からのディスカッションや宗教的体験のシェアリング活動を通して、キリスト教を中心とする「宗教」がこんなにも私たちの生活に影響していることがよくわかり、また、私自身の生活にとっても切り離せないものだということが気が付きました。人との繋がりについても再認識させられ、キャンプでの活動すべてを通して、今まで自分がどれだけ身勝手に、周りに感謝できていないかにも気づかされました。これからどのように生きていけばよいか考える良い機会にもなったと思います。

キャンプで出会った仲間たちには心から感謝しています。また、今回学んだことを生かしながら、自分自身を成長させていきたいです。



ASEACCU(東南・東アジアカトリック大学連盟) 学生会議に参加して

期間: 2016年8月22日~28日
場所: The University of Notre Dame Australia
(オーストラリア・ブルーム市)

参加者: 金 陶娟さん(総合政策学部総合政策学科4年)
中山美穂さん(総合政策学部総合政策学科4年)

ASEACCU実施内容

ASEACCU※には、日本、オーストラリア、インドネシア、韓国、フィリピン、台湾、タイ、カンボジアといった東南アジア・東アジアの国や地域から、70校が加盟しています。8月22日から28日にオーストラリアのブルーム市にあるThe University of Notre Dame Australiaで実施された2016年度ASEACCU学生会議には、8カ国・地域から50名以上の学生が集まりました。今年度は「Valuing Indigenous Cultures and Traditions in the Care for our Common Homes」をテーマに学生同士のディスカッションやプレゼンテーションの発表を行いました。また、オーストラリア先住民の文化に触れる機会として、コミュニティの訪問や基調講演が行われ、Service Learning※2では現地の小学校を訪問するなど、様々なプログラムが用意されており、参加した学生はアジア各国から集まった学生と有意義な時間を過ごしました。

※1 ASEACCU: The Association of Southeast and East Asian Catholic Colleges and Universities

※2 コミュニティサービス活動と教科学習をつなげた社会貢献型の体験学習



金 陶娟さん感想

ASEACCU学生会議に参加することができたのは、4年間の大学生活で英語の勉強に力を入れてきたことを認めていただけたようで、誇りに感じております。今回のテーマは、「先住民文化や伝統を大切に、私たちの共通の家を守っていく」で、オーストラリアのブルームに8カ国・地域の学生代表が集まりました。ブルームという地域は、アボリジニのヤウリ人が住んでいる所であり、テーマに関する講義を聞くだけではなく、実際に様々なアボリジニに会うことができたので、良い勉強になりました。元々、オーストラリアでは様々な文化や伝統を尊重してきたのではないかと感じていたのですが、昔のアボリジニに対する強制移住政策について聞いて驚きました。現在はその誤りを正すための様々な動きがありますが、まだ強制移住政策の被害者は苦しんでいます。先住民文化や伝統を守ることの大切さに共感するだけではなく、より多くの人に知ってもらいたいと思っています。



中山美穂さん感想

今回ASEACCU学生会議の開催地となった西オーストラリアのブルームは、オーストラリアの先住民であるアボリジニの方が多く、その歴史も異文化が混在しながら作り上げられたような地域でした。

今年の会議のテーマに沿って、アジア各国についてのプレゼンテーションを聞き、オーストラリアの多文化共生への道のりを学び、そして他国の学生と意見交換を行うなど、多くの貴重な経験ができた1週間でした。

ブルームは日本と比較して、人も車も明かりも少ない地域でしたが、イコール不便ということもなく、むしろ人の温かさを感じられるところでした。「便利なものは必ずしも「必要なもの」であるとは限らず、普段の生活を見返してみると「なくても良いもの」が増え、自然や伝統文化などの未来のために守るべきものが蔑ろにされる世の中になっているのではないかと感じました。

学生生活も今年で終わりなので、ASEACCUでの経験を生かして社会に貢献できる人間になりたいと思います。



私の研究



中村 督 (なかむら ただし)
外国語学部 フランス学科 准教授

専攻分野は、「近現代フランス史」、「地域文化研究」、「社会史」。
研究テーマは、戦後フランス社会に関する歴史研究。
主な担当科目は、フランスの社会、時事フランス語、論文作成法。

(2014年に『ロブス』に名称変更)というニュース週刊誌に着目して研究を進めてきました。同誌は「知識人の週刊誌」と称される一方で、国内では最大販売部数を誇る雑誌であり、フランスを代表する媒体としてよく知られています。しかし、10年ほど前に同誌をめぐる研究がないことを知り、以来、久しくその通史を描くべくして資料を博捜し、論文として少しずつ成果を公表してきました。

今後の研究ですが、たしかに教科書的にフランス社会について汎論してみたいという野心はあります。しかし、その一方、少し考えてみただけでも歴史記述の隙間や余白はたくさん残されており、そこを埋めていく研究の重要性も感じています。仮にもどちらかを選ばなければならないとすれば、差し当たりは後者、すなわち好奇心と忍耐力に支えられるような地道な歴史研究を続けたいというのが本当のところでは。

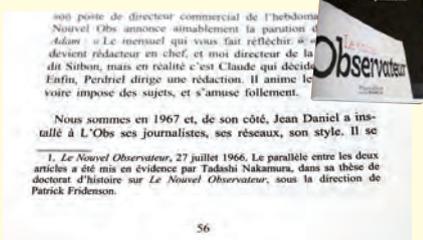
歴史を通じて 現代社会を理解すること

フランスには文学、芸術、ファッション、料理といった華々しい文化のある一方で、移民や宗教をめぐる生じる貧困や差別といった問題も存在しています。こうしたフランス社会とは一体何なのでしょう。この問いを歴史学的観点から検討するのが私の研究で、それは通称「社会史」と呼ばれる領域に属します。そういう「社会に関わる事柄なら何でもありなのか」という話ですが、少なくとも研究対象については「そうである」と思っています。

ただ、個人的には従来、論及の避けられてきたいわゆる「隙間」のごとき対象を探したくなります。具体的にいうと、これまで『ル・ヌーヴェル・オブセルヴァトゥール』



研究対象の一つである
Le Nouvel Observateurの創刊号
(1964年11月19日)



フランス語の書籍での筆者の紹介
(Jacqueline Remy, *Le Nouvel Observateur. 50 ans de passions*, Pygmalion, 2014)

私のクラス



安田 忍 (やすだしのぶ)
経営学部 経営学科 教授

専攻分野は、会計学、監査論。
研究テーマは、会計基準設定の理論と会計監査制度の関係。
主な担当科目は、商業簿記中級、財務会計論。

問い続け、 学び続けることの 面白さを伝えたい

企業会計は、企業の経済活動を一定のルールに従って計数的に記録し、その結果を会計報告書(財務諸表)にまとめる一連のシステムです。私は、経済活動を財務諸表項目の増減変化として会計処理し、記録していく仕組みを勉強する「商業簿記中級」と、その変化をどの時点でいくらで記録すべきかを理論的に考える「財務会計論」を担当しています。ここでは、授業を通じて日々考えている、教育への思いの一端を述べたいと思います。

会計処理および財務諸表の作成・報告は、社会的な会計ルール(一般に公正妥当と認められる企業会計の基準)に準拠することが要請されています。そのた

め、「財務会計論」では、準拠すべき会計ルールの理解が不可欠です。そこではいろいろな専門用語や会計ルールを根拠付ける考え方(理論)が出てきます。これは「なに」なのか、「なぜ」そのような考え方をするのか、授業ではこの点を重視して講義を進めています。学生には、「なに」、「なぜ」を常に意識する習慣を身につけ、何事にも知的好奇心を持って取り組む姿勢を自ら育んで欲しいと思っています。

もう一点、「学問に王道なし」といわれますが、会計分野(とりわけ簿記)の勉強は、段階的な学習の積み上げを必要とするため、コツコツ継続して学習することが求められます。そのため、学生にとっては好き嫌いの出来やすい分野のようですが、学び続ける努力が成果(例えば、単位修得、検定試験合格など)となることを実感してもらい、地道に学び続けることの喜びや面白さを、授業を通して伝えられたらと思っています。



「財務会計論」の授業風景

News

■ 本学社会倫理研究所 籠橋講師が 2016年度環境経済・政策学会学会賞 (奨励賞)を受賞

本学社会倫理研究所(経済学部経済学科)の籠橋一輝講師が、2016年度環境経済・政策学会学会賞(奨励賞)を受賞しました。本賞は、原則として若手による環境経済・政策分野の奨励に値する論文あるいは著書に対して授与されるものです。

受賞対象となった論文は、以下の論文です。

Kazuki Kagohashi, Tetsuya Tsurumi* and Shunsuke Managi, "The Effects of International Trade on Water Use." *PLoS ONE*, 10(7), 2015.

* 本学総合政策学部 鶴見哲也准教授(共著)

この論文は、国際貿易が各国の水利用量に与える影響について、従来は考慮されてこなかった貿易の内生性を考慮した上で推計し、貿易取引の増加が各国の水利用量を減少させる効果を持つことを明らかにしたものです。

籠橋一輝講師、受賞おめでとうございます!



受賞挨拶をする籠橋講師

活躍する南山大生

全日本学生弓道遠的選手権大会で3位入賞

第47回全日本学生弓道遠的選手権大会(全国大会)で、弓道部の春日井陽介さん(経営学部3年生)が3位入賞しました。近的が28メートルの距離に対し、遠的は60メートル先の的に矢を当てる競技です。決勝では、約50人が一射ずつ的に向かって弓矢を放ち、的に命中させることができなかつた時点で敗退となりますが、春日井さんは連続して6射まで命中させることができました。春日井さんは現在、弓道の審査において大学生が取得できる最高段位の5段を取得しています。また、使用している弓は大学生が一般的に使用している14キ口ではなく、21キ口の弓力を持つ弓ですので、弓を引くのにもかなりの力が必要です。毎日欠かさず練習に励んでいる春日井さんに弓道の魅力を聞いたところ、「スポーツとしての面もありながら、精神力や所作の美しさも必要とされ、武道の面も併せ持つところが弓道の魅力です。」と語ってくれました。今後も、南山大学弓道部の活躍を期待しています。



2016.10.8

野外宗教劇「受難」



10月8日に、名古屋キャンパスのパッヘ・スクエアで第50回野外宗教劇「受難」の公演を行いました。イエス・キリストのエルサレム入城からゴルゴタの丘における十字架上の死を経た復活までを、課外活動団体「野外宗教劇」の部員が演じ、第50回を記念して「南山大学スコラ・カントールム(聖歌隊)」がコーラスで参加しました。

スコラ・カントールムはアルカデルトの「アヴェ・マリア」と、ヘンデルの「メサイヤ」から、「アーメン・コー

ラス」と「ハレルヤ・コーラス」を披露してくれました。両クラブの見事なコラボレーションによって、荘厳な雰囲気演出することにも成功し、劇の終了後には観客席から歓声が湧きあがりました。今回は「人を愛する」がテーマでしたが、イエスが語った例え話である「善きサマリア人」の話など、私たちが他者のために何ができるのかを「愛」という視点で考えるきっかけになったのではないかと思います。

本公演は、野外宗教劇の部員30名と、南山大学ス

コラ・カントールムの部員35名の他に、各クラブの学生もエキストラとして多く参加しています。学生たちの長期間にわたる努力の賜物である「野外宗教劇」は、伝統を継承し今後もさらに魅力的な公演を行っていきます。



学生の声

第50回 野外宗教劇「受難」 公演を終えて

この度は第50回「受難」にお越しいただき、誠にありがとうございました。

また、本公演に協力していただきましたすべての方々に、深く御礼申し上げます。

当日は、天候不順が心配されましたが、多くの皆様を受難劇をご覧いただき、無事公演を成功させることができました。5月からほぼ毎日、この日のために練習してきたことが報われ、部員一同、達成感に満ち足りております。

今年度で受難劇は50回目という記念の年となりました。50回という節目を迎え、今までと違う受難劇を行うことになり、南山大学スコラ・カントールムの方々に聖歌を劇中に合唱していただきました。例年とは違った受難劇をお楽しみいただけたと思います。

本公演をもちまして、私たち3年生は引退しましたが、来年、再来年と受難劇は色を変えながらこれからも続いていきます。50年以上続く伝統を絶やさず、100回、200回と末永く皆様にご覧いただけましたら主幹としてこれ以上の喜びはございません。

来年以降、また多くの方に感動を届けられるよう、部員一同頑張っていきます。



野外宗教劇 主幹
宮田 真一郎
(法学部法律学科3年)



南山のDNA

ものは考え次第



徐 梨恵
人文学部心理人間学科
2005年度卒業

Profile
無名塾にて演劇の基礎を学び、その後拠点を名古屋に移しドラマやCM、舞台で活動中。2017年は一時的に拠点を海外に移すため、1年間休業する予定である。

私の仕事はテレビや舞台でお芝居をする役者です。心理人間学科を卒業し、仲代達矢氏が主宰する無名塾に入塾、そこでお芝居の基礎を学びました。馴染みのない方も多いと思うこの職業について私の考えを少しお話しすると、役者は表現者である前に一人の職人であると私は考えます。もちろん役者というからには、演じる役をその瞬間その場で生きている能力が求められるのですが、それには感性だけでなく技術が必要だからです。

人のコンディションはささいな事の影響を受けて常に変化します。しかし役者として舞台上立つ時には、自分がどんなコンディションであろうと、同じクオリティの芝居をいつでも何度でも演じることが求められます。これはドラマや映画などの現場でも同じで、一つのシーンを撮りきるまでに同じクオリティの演技を何度でも演じます。また役をどう捉え監督や演出家の求めにどう応えるかといった引き出しの多さも技術の一つでしょう。

CM撮影中



「女の平和」の舞台にて

海外からのご来訪



2016.7.15

7月15日に、世界展開力強化事業の協定校となるメキシコのグアナフアト大学からSergio Antonio Silva Muñoz先生(国際部長)が、南山大学との大学間相互協力協定、学生交流協定の締結のため来学され、カルマン学長が調印しました。

本学の施設等を見学され、世界展開力強化事業担当の先生方と今後の連携に関し具体的な協議が行われました。



2016.10.5

10月5日に、コロンビアのハベリアナ大学カリ校の副学長Dra. Ana Milena Yoshioka氏が来学されました。同日に名古屋キャンパスS棟でラテンアメリカ研究センター主催、スペイン・ラテンアメリカ学科共催の講演会「Colombia: Realismo Mágico」で講師をされた後、カルマン学長を表敬訪問されました。



2016.11.11

11月11日に、インディアナ州ハモンドにある協定校、パデュー大学ノースウェスト校の学長Thomas L. Keon氏、ビジネスカレッジ副学部長Lori Feldman氏、英語学科長Karen Morris氏、国際担当副学長補佐Dallas Kenny氏の4名が来学され、カルマン学長を表敬訪問された後、キャンパス見学をされました。



Special Events

2016.9.16

「リアンカフェ」オープン

南山大学の新しい食堂「リアンカフェ」が9月16日にオープンし、多くの学生・教職員で賑わいました。9月16日・19日の2日間は、オープン記念メニューとして「ローストビーフプレート」や「スモークサーモンとチーズのペーゲル」等が提供されました。

9月20日からは通常メニューでの営業となり、「プレートランチ」、「バスタランチ」等、日替わりで提供しています。ぜひご利用ください。



2016.9.16

南山大学附属小学校1年生 オリエンテーリング

9月16日に、名古屋キャンパス構内で、南山大学附属小学校のオリエンテーリングが行われました。

これは宿泊学習の活動の一つで、大学を身近に感じながら体験学習を行い、自立的・能動的な学びの姿勢を身につけることを目的として実施されました。

グリーンエリアでお弁当を食べた後、大学構内の地図を持ち、4人グループに分かれてオリエンテーリングを開始しました。はじめのチェックポイントは、イエス・キリスト像やバツ神父の碑を見つけることでした。R棟のロビーでは、小学校で学んだ英語を使って外国人留学生と会話や質問をしました。メインストリートでは、大学生へインタビューを積極的に行い、普段とは違った体験や交流を楽しみました。



2016.9.19

「大学の世界展開力強化事業(中南米)」 日本語集中プログラムの修了式

上智大学との連携プログラム「大学の世界展開力強化事業(中南米)」日本語集中プログラムの修了式を9月19日に行いました。3月に続き2回目の受け入れとなる今回は、アルゼンチン、チリ、コロンビア、ペルーから5名の学生が参加しました。

3週間の短期間でしたが、学校や企業でのインターンシップを体験し、ペルースタディツアー参加者をはじめとする日本人学生と交流することができました。上智大学へ移動した後も、南山大学での経験を生かして、有意義な留学になることを祈ります。



2016.9.24

父母の集い

9月24日に、南山大学と南山大学後援会の共催により、名古屋・瀬戸両キャンパスで第44回「南山大学父母の集い」を開催しました。

全体集会では、ミカエル・カルマノ学長、樋口和則後援会理事長(名古屋キャンパス)、米川信幸後援会副理事長(瀬戸キャンパス)の挨拶に続き、本学担当者より学生生活、進路支援の方針および2016年度就職状況、国際教育について説明を行いました。

また、在学生4名と鈴木貴之教授(学長補佐)によるパネルディスカッションを「南山生の底力! ~それぞれの就職活動で乗り越えた壁~」をテーマに開催しました。就職に関しての保護者の関心は高く、質疑応答

は中継会場からも多くの手が挙がりました。

その他にも、学部・学科懇談会や指導教員との個別面談を実施しました。



2016.10.1-2016.11.6

2016年度明治大学博物館・南山大学人類学博物館交流事業 「はにわのまつりー玉里舟塚古墳の埴輪の世界ー」

明治大学博物館と南山大学人類学博物館は2016年度から交流・連携に関する協定を結び、収蔵品の交換展示や共同シンポジウムなどを開催してきました。今年度は、10月1日から11月6日に、両館の資料を交換して展示する交換展示と、学芸員によるギャラリートーク、在学生向けの講座を開催しました。

明治大学博物館による企画展「はにわのまつりー玉里舟塚古墳の埴輪の世界ー」を南山大学人類学博物館で開催し、明治大学が1960年代に発掘した茨城県子美玉市の玉里舟塚古墳の埴輪群を展示しました。中には、その大きさが1メートルを超えるものもあり、玉里舟塚古墳の埴輪を特徴づける資料から、古墳の上で展開された埴輪のまつりの姿を紹介しました。

また、南山大学人類学博物館による企画展「交錯する視線ー文化人類学者 西江雅之の『歩き方』ー」を明治大学博物館で開催し、2015年度に南山大学人類

学博物館に寄贈された人類学者・西江雅之氏のコレクションを展示しました。アフリカのマコンデ族の人物像やバリ島の儀礼劇に用いられる魔女ランダの仮面など、故西江雅之氏が世界各地で収集した資料群の展示を通じて、西江氏の研究やその人柄、西江氏がみた世界を紹介しました。



2016.10.24-2016.11.10(名古屋キャンパス)、2016.11.16-2016.11.24(瀬戸キャンパス)

図書館 秋の企画展

「シェイクスピア・Shakespeare・沙吉比亞」

10月24日~11月10日(名古屋キャンパス)、11月16日~24日(瀬戸キャンパス)にそれぞれ両キャンパス図書館で秋の企画展「シェイクスピア・Shakespeare・沙吉比亞」を開催しました。

今回の企画展は、「世界の文豪」シェイクスピア没後400年にちなみ、イギリスのルネサンス期に生きた詩人であり劇作家、シェイクスピアについて、作品の特徴や名せりふ集などをパネルで紹介しました。また、本学が所蔵している貴重書Mr. William Shakespeares comedies, histories, & tragediesを展示しました。



2016.10.26

CJSフェスタ2016秋

10月26日に名古屋キャンパスでCJSフェスタ2016秋を行いました。CJSフェスタは、日本語と日本文化を勉強する外国人留学生の在籍するCJS (Center for Japanese Studies[外国人留学生別科])が主催するイベントで、今年で10年目を迎えました。日本語レベルにより5つのコースに分かれた外国人留学生が、日頃の成果を発表し、参加した多くの学部学生と交流を深めました。

初級コースでは自分の町や国のおもしろいイベントを、中級コースでは母国の大学や大学のある街を、写真を交えて紹介しました。中級コースでは「留学を語ろう」と題し、外国語学習や留学に関する様々なテーマについての話し合いを、中級コースではテキストで勉強した「データで見る日本事情」について、座談会形式で意見交換を行いました。上級コースでは「食文化」をテーマに、各国の料理について自由に話し合いながら、様々な文化・習慣・価値観についてディスカッションを行いました。

参加した学部学生にとって国際理解や海外留学への関心を高めるよい機会となりました。



2016.10.29

受験生のための入試相談会・ 保護者のためのキャンパス見学会

10月29日に名古屋キャンパスで、一般入試・全学統一入試・センター利用入試の受験予定者の方を対象とした「受験生のための入試相談会」と、高校生の保護者の方を対象とした「保護者のためのキャンパス見学会」を同時開催し、961名の方にご来場いただきました。

受験生向けには入試説明会、学部説明会、入試対策講座を、保護者向けには大学概要説明、就職状況とサポート体制の紹介、入試説明会等を実施した他、Web出願についての説明会、個別相談コーナー、キャンパスツアーも行いました。



2016.11.2-2016.11.4

韓南大学校法政大学法学部(韓国)との学術交流会

南山大学法学部・法科大学院と韓国の韓南大学校法政大学法学部は、毎年南山大学大学祭の時期に3~4日間の学術交流会を行っています。1年交代で日本または韓国で研究発表や議論をしており、14年目となる今年度は、南山大学で11月2日から11月4日に実施しました。

この交流会は、教員のみで



はなく、法学部・法科大学院の希望学生も参加しており、今年は「日韓倒産法上の諸問題」をテーマに議論を交わしました。学術交流の他、懇親会も実施し、大学間の交流が積極的にはかれました。

2016.11.3-2016.11.6

大学祭

11月3日から11月6日に名古屋キャンパスで、11月6日に瀬戸キャンパスで、南山大学大学祭を開催しました。

名古屋キャンパス南山祭のテーマは「ワンダーランド」。メインストリートには50店を超える模擬店が並び、教室棟や体育館では、音楽演奏、作品の展示・販売、寄席・落語会、映画・演劇の上演等を行いました。グリーンエリアに設置されたメインステージでは、開祭式から後夜祭まで、バンド演奏や演技披露等、各団体が練習の成果を発表し、多くの人で賑わいました。

瀬戸キャンパス聖南祭は「Fun!fare」というテーマ



2016.11.20

2016年度南山大学・豊田工業大学連携講演会 「『持続可能な社会』について考える」

11月20日に、2016年度南山大学・豊田工業大学連携講演会を豊田工業大学大講義室で行いました。連携講演会は、両大学の連携姿勢と成果を広く社会に周知することで社会的な認知度をあげると共に、地域一般の教養啓発をはかることを目的に行っているもので、今年で11回目の開催となりました。

今年のテーマは「『持続可能な社会』について考える」。豊田工業大学からは工学部本山幸弘教授が「資源・環境・エネルギー問題と『水素社会』」と題し、資源・環境・エネルギー問題とその緩和への取り組みを解説し、生活に不可欠な材料の合成やエネルギーの活用にも水素を最大限に生かす「水素社会」の実現に向けた取り組みについて紹介しました。

南山大学からは外国語学部神崎宣次教授が「科学技術とサステナビリティ」と題し、両義的側面をもつ科学技術とサステナビリティとの関係について、その歴史的経緯と私たちがどう考えたらよいかを倫理学的観点からふまえて講演しました。

講演後には質疑応答の時間も設けられ、盛況の中、講演会は幕を閉じました。



2017.3.20

2016年度南山大学卒業式

開催日時:2017年3月20日(月・祝)

第1部 午後1時より
第2部 午後3時15分より

場 所:名古屋キャンパス体育館

内 訳:第1部

外国語学部、法学部、情報理工学部、
短期大学部、国際地域文化研究科、
法務研究科、理工学研究科、
数理情報研究科

第2部

人文学部、経済学部、経営学部、
総合政策学部、人間文化研究科、
社会科学部研究科、ビジネス研究科、
総合政策研究科

問合せ先:総務課 (Phone:052-832-3112)

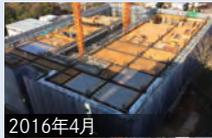


キャンパス統合

News

2016年7月に新食堂棟(リアン)が竣工し、現在、2017年度のキャンパス統合に向けて、新研究・教室棟の建築が進んでいます。新研究・教室棟は、地上7階までの躯体工事を終え、2017年2月末の竣工に向けて、内外装仕上げ工事を進めています。

新教室棟エリア



2016年4月



2016年6月



2016年8月



2016年5月



2016年7月



2016年9月



2016年10月



2016年11月

南山大学将来構想募金のお願

南山大学におけるキャンパス整備をはじめとする将来構想を実現するための諸活動に対する支援として、引き続き皆さまからの募金のご支援をお待ち致しております。

なお、2016年4月から募金のお申込方法を増やし、手続きを簡略化しました。詳しくは大学Webページ「南山大学将来構想募金のお願」をご覧ください。趣旨をご理解いただき、格別のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。
<http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/bokin/index.html>



Information

2017年度学生納付金改定について

2017年度南山大学学生納付金について、2016年1月29日開催の南山学園理事会は、消費者物価指数などの外的要因、教育研究条件の改善ならびに経済的現況を総合的に勘案した結果、授業料・施設設備費を一部改定することを決定しました。

◎学部学生

情報理工学部、理工学部および総合政策学部を除く学部については、授業料を現行の718,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の210,000円に据え置く。外国語学部英米学科LL実習費は、1年次生および2年次生は現行の18,000円に、3年次生および4年次生は現行の9,000円に据え置く。

情報理工学部、理工学部については、授業料を現行の818,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の210,000円に据え置く。

総合政策学部については、授業料を現行の718,000円に据え置く。2015年度および2016年度入学生の施設設備費は現行の240,000円を210,000円に改定し、2014年度以前の入学生は現行の210,000円に据え置く。

◎大学院学生

数理情報研究科、理工学研究科、ビジネス研究科ビジネス専攻および法務研究科を除く研究科については、授業料を現行の574,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の105,000円に据え置く。ビジネス研究科ビジネス専攻については、授業料を現行の700,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の100,000円に据え置く。法務研究科については、授業料を現行の1,000,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の200,000円に据え置く。

数理情報研究科および理工学研究科については、授業料を現行の654,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の105,000円に据え置く。

◎南山大学短期大学部

授業料を現行の718,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の210,000円に据え置く。

なお、2017年度からのクォーター制導入にともない、学生納付金の徴収(引落)は以下のとおりとなります。詳しくは各学期の公示および学納金通知はがきにてご確認ください。

【引落日】

春学期(第1・第2クォーター分)

現行: 4月12日 ⇒ 2017年度: 4月12日(変更なし)

秋学期(第3・第4クォーター分)

現行: 10月12日 ⇒ 2017年度: 9月28日

寄附者ご芳名

「南山大学将来構想募金」へのご協力に感謝いたします。

南山大学同窓会静岡支部 様 南山大学同窓会東京支部 様

中根 勝美 様	松沢 早苗 様	野辺 進 様
大町 浩二 様	安田 香里 様	浅田 弘 様
細川 俊 様	谷崎富士子 様	服部恵美子 様
水野 裕之 様	齋藤 英臣 様	武鹿 照崇 様
日美江利子 様	長瀬 健一 様	伊藤 照満 様
片山 昌樹 様	後藤 悟 様	加藤 正吉 様
原 郁子 様	荒井志津子 様	大原 幸子 様
柴田 正樹 様	藤井 秀彦 様	塩谷 圭 様
村上真由美 様	稲垣 信司 様	宇田 光 様
富田 恵美 様		匿名ご希望者23名様

「南山大学教育研究支援」へのご協力に感謝いたします。

株式会社名古屋銀行 様
齋藤 敦史 様 細川 俊 様
齋藤 志穂 様 稲垣 信司 様
匿名ご希望者4名様

新任用教員紹介

2016年10月1日付

●法学部
教授 洪 恵子 (専攻分野:国際法)

『ブレティン194号』 掲載内容の訂正

『ブレティン194号』(2015年9月30日発行)の「2017年度クォーター制導入」の記事で「授業を100分に変更し、各授業を原則として毎週2回、1クォーターで14回開講」という内容を掲載しておりましたが、その後、授業回数を検討した結果、1クォーターで15回開講し、授業時間は現在と同様に90分で行うこととなりました。各授業を原則として毎週2回実施し、定期試験を含む8週間を1クォーターとします。

詳細は教務課Webページをご覧ください。

<http://office.nanzan-u.ac.jp/KYUOMU/post-10.html>

